

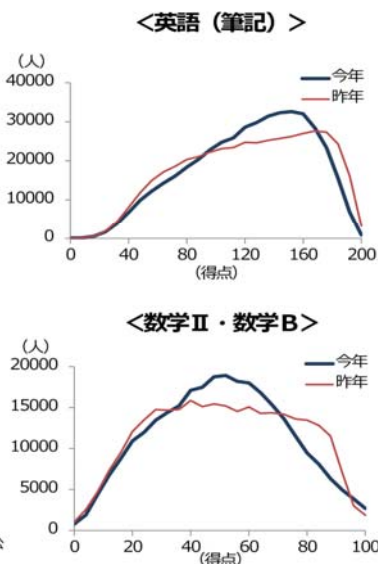
センター試験の概況①

● センター試験平均点

教科・科目	昨年	今年	差
英語（筆記）	123.7	124	+0
英語（リスニング）	28.1	23	-5
数学Ⅰ・数学A	61.1	62	+1
数学Ⅱ・数学B	52.1	51	-1
国語	107.0	105	-2
理科①			
物理基礎	29.7	32	+2
化学基礎	28.6	30	+1
生物基礎	39.5	36	-3
地学基礎	32.5	34	+2
理科②			
物理	62.9	62	-1
化学	51.9	60	+8
生物	69.0	62	-7
地学	53.8	50	-4
地歴・公民			
世界史B	65.4	68	+3
日本史B	59.3	62	+3
地理B	62.3	68	+6
現代社会	57.4	58	+1
倫理	54.7	68	+13
政治・経済	63.0	57	-6
倫理、政治・経済	66.6	73	+6
総合型			
5～7文系型	555	552	-3
5～7理系型	559	560	+1

※7科目文系型（900点満点）：外・数（2科目）・国・理・地公（2科目）
 ※7科目理系型（900点満点）：外・数（2科目）・国・理（2科目）・地公（2科目）
 ※理①は2科目を1科目とみなして集計
 ※今年の数値は河合塾予想、総合型は昨年とも河合塾推定

● センター・リサーチ参加者の科目別得点分布



左はセンター試験の平均点（2018年度は河合塾予想）。英数国の主要教科では、英語（リスニング）、国語で平均点がダウンした。

理科②、地歴公民では科目間の平均点差は小さく、得点調整はない見込み。

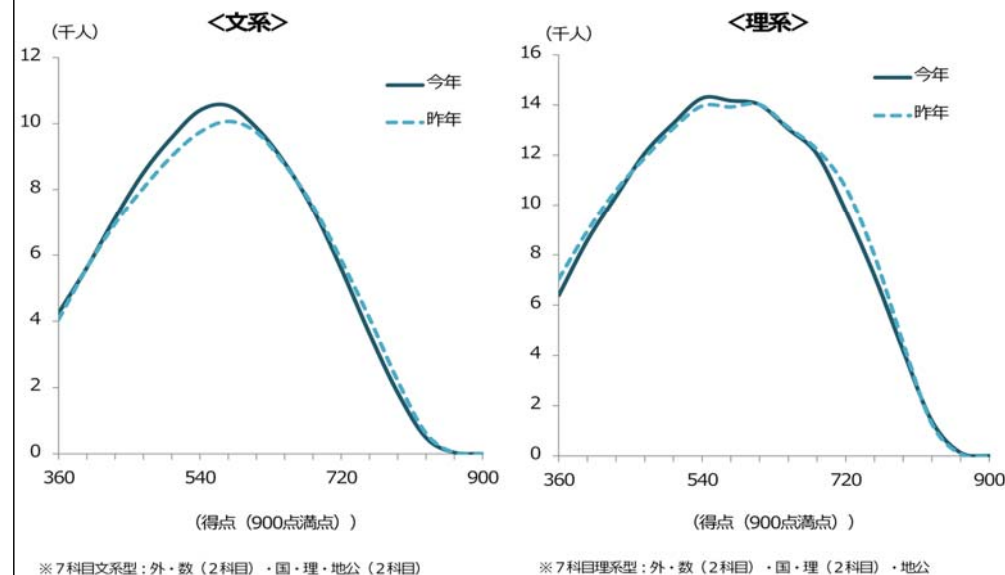
右はセンター・リサーチ参加者の「英語（筆記）」、「数学Ⅱ・数学B」の得点分布（※）。

両科目とも平均点はほとんど変化がなかったものの、いずれも成績上位層が昨年より減少している。今年のセンター試験では、高得点を取りづらい状況だったことがうかがえる。

※得点分布は河合塾センター試験自己採点集計「センター・リサーチ」のもの

センター試験の概況②

● センター・リサーチ参加者の7科目型得点分布



こちらは国公立大の受験を狙う7科目型受験者の文系・理系別の得点分布（※）。

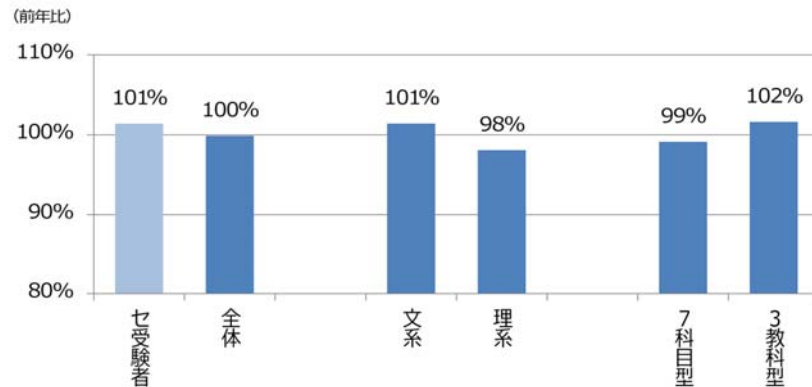
文系・理系ともに、難関大合格の目安となる8割（720点）以上の成績層が減少している。

1枚目で、英語、数学などで高得点を取りづらくなっている様子を紹介したが、その結果が7科目型の分布にも反映されている。

※得点分布は河合塾センター試験自己採点集計「センター・リサーチ」のもの

【センター・リサーチ】参加状況

● 参加者数 445,158人



※セ受験者はセンター試験外国語受験者数
※文系・理系は本人のマークによる

● (参考) センター試験の状況

	昨年	今年	前年比
志願者数	575,967	582,671	101.2%
外国語受験者数	540,941	548,465	101.4%

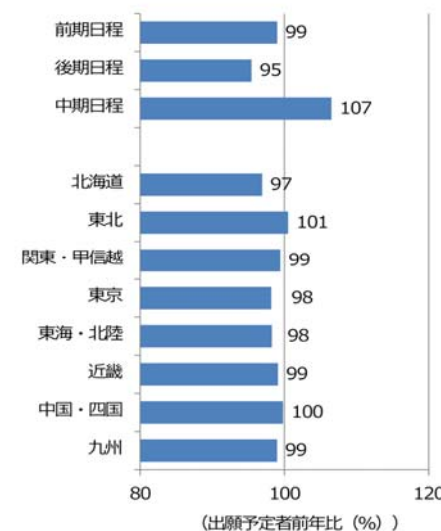
センター試験受験者の8割超の方から寄せられた河合塾の自己採点集計（センター・リサーチ）の概況。今年の「センター・リサーチ」の参加者数は445,158人。データ件数の前年比は100%と前年並み。

文系・理系別では、文系で1%増、理系で2%減と、「文高理低」となっている。

教科型別では、国公立大志望者が中心となる7科目型は99%と減少した一方、私立大志望者が中心となる3教科型は102%と増加。

国公立大の志望動向①(全体概況)

● 全体概況



※難関10大: 旧帝大・東工大・一橋大・神戸大

※難関・地域拠点大: 筑波大・千葉大・横国大・新潟大・金沢大・岡山県大・広島大・熊本大・首都大東京・大阪市大

※「地区別」「大学グループ別」は前期日程で集計

※文系学部: 文・人文、社会・国際、法・政治、経済・経営・商、教育 理系学部: 理、工、農、医療 その他: 生活科学、芸術・スポーツ科学、学際

● 大学グループ別

	昨年	今年	前年比
難関10大	57,739	57,975	100%
文系学部	20,793	21,103	101%
理系学部	35,086	35,025	100%
その他	1,860	1,847	99%
準難関・地域拠点大	47,856	46,950	98%
文系学部	20,608	20,621	100%
理系学部	25,118	24,288	97%
その他	2,130	2,041	96%
その他大	154,642	152,710	99%
文系学部	67,334	67,300	100%
理系学部	73,959	71,430	97%
その他	13,349	13,980	105%
国公立大計	260,237	257,635	99%

左側は国公立大志望動向の全体概況。

国公立大入試の中心となる前期日程の出願予定者数は前年比99%となっている。

中期日程では前年比107%と増加しているが、新たに中期日程を実施する大学・学部がある影響が大きい。

右側は大学グループ別の状況。

旧帝大を中心とした難関10大学は前年比100%となっているのをはじめ、各グループとも全体では前年並みとなっている。

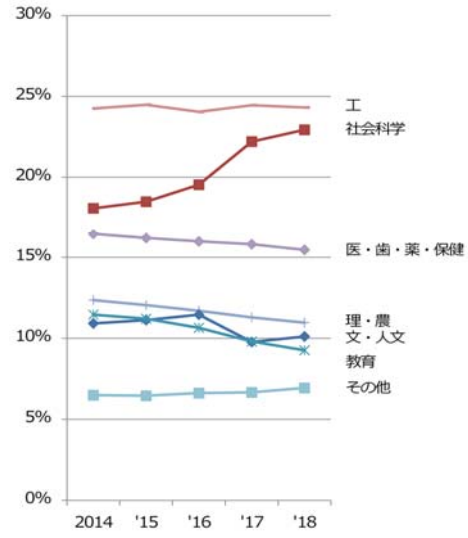
文理別にみると、理系学部はいずれのグループにおいても文系学部の前年比を下回っており、「文高理低」の傾向となっている。

国公立大の志望動向②(学部系統別)

● 出願予定者前年比



● 系統別出願予定者の占有率の推移



学部系統別では、「文・人文」「社会・国際」「経済・経営・商」など文系学部で増加、「工」「農」など理系学部で減少している。

教育系では課程を問わず出願予定者が減少しており、不人気となっている。医学科も出願予定者が減少しており、競争緩和が期待できそうな状況。

「総合・環境・人間・情報」のなかでは、近年のニーズの高まりを背景に情報系の学部が人気を集めている。「工」の情報分野も同様に人気である。

右側の折れ線グラフは、センター・リサーチでの系統別出願予定者の占有率をみたもの。各年度とも全体の出願予定者数を100として、各系統の出願予定者の占有率の推移を表す。

ここ数年、社会科学系の人気上昇が続いているが、今年は一層その人気が高まっている。一方、医療系、理学系、農学系、教育系などは減少傾向にある。2018年度入試においても、こうした系統人気が続いてみられる。

公立大 例外的日程実施大の状況

● 中期日程

大学	学部	出願予定者		
		昨年	今年	前年比
釧路公立	経済	1,248	1,315	105%
高崎経済	経済	2,718	2,903	107%
秋田公立美術	美術	165	175	106%
長岡造形	造形	544	480	88%
金沢美術工芸	美術工芸	760	751	99%
都留文科	教養	1,810	1,294	71%
都留文科	文	2,321	2,270	98%
長野	環境ツーリズム	-	326	-
	企業情報	-	283	-
	社会福祉	-	312	-
岐阜薬科	薬	868	878	101%
長野県立	グローバルマネジメント	-	268	-
	健康発達	-	512	-
静岡県立	薬	1,018	812	80%
名古屋市立	薬	1,234	1,077	87%
大阪府立	工	3,772	3,813	101%
兵庫県立	理	1,543	1,491	97%
奈良県立	地域創造	726	643	89%
岡山県立	情報工	1,132	1,164	103%
山陽小野田市立	工	828	865	104%
山口東京理科	薬	-	1,286	-
下関市立	経済	3,541	2,890	82%
中期計		24,228	25,808	107%

● 別日程

大学	学部	日程	出願予定者			出願 締切日	入試日
			昨年	今年	前年比		
国際教養	国際教養	A	641	547	85%	1/19	2/3
		B	587	550	94%	2/2	2/17
		C	428	350	82%	3/1	3/14
新潟県立	国際地域	A	917	922	101%	1/17	2/4
		B	682	839	123%	1/26	2/18
		C	222	223	100%	2/23	3/14
	人間生活	A	374	321	86%	1/17	2/4
		B	394	385	98%	1/26	2/18
		C	170	133	78%	2/23	3/14
公立小松	国際文化交 流	A	-	372	-	1/24	2/18
		B	-	147	-	1/24	3/10
	生産システ ム科学	A	-	249	-	1/24	2/18
		B	-	69	-	1/24	3/10
	保健医療	A	-	658	-	1/24	2/18
諏訪東京理科	工	B	-	282	-	1/24	3/10
		A前	406	1,095	270%	2/1	-

※諏訪東京理科大は他にA日程中期・後期、B日程前期・後期がある
 (出願締切日…A中: 2/23、A後: 3/14、B前: 1/23、B後: 3/9)

● 中期日程 新規実施大

長野大、長野県立大、
山陽小野田市立山口東京理科大(薬)

● 別日程 新規実施大

公立小松大

2018年度は新設の公立大学・学部で中期日程や別日程など変則的な募集をする大学が目立つ。

中期日程には、2017年度に公立化した長野大や、新設の長野県立大が加わる。

また、山陽小野田市立山口東京理科大が新設する薬学部も中期日程で実施する。この大学の薬学部には、募集人員90名に対して1,286人の出願予定者が集まっている。

別日程には、新設の公立小松大が加わる。

また、2018年度より公立大学法人化する諏訪東京理科大は、2018年度入試は私立大として行うため、他の国公立大学とは別の日程での入試となる。

こうした別日程で実施する大学は、分離分割方式とは別に出願できるため、多くの出願が予想される。